八月六日を迎ふるに当りて

今年も原爆を受けた季節が巡（めぐ）って来ました。当時からの広島の住民にとっては夏の来る事の中に八月六日が来るのではなく、むしろ原爆の記憶の中に四季がめぐってくるような感じがあります。白い夏は悲しみの季節である。といへ記憶を生涯忘れ難い由となって居ります。

広島を故郷とする家庭の人々は、それぐ＼に肉身の、或ひは親類縁者の命日を迎える心づくりに、あの千代紙細工の灯籠や、精進料理の材料をぼつぼつ整へている頃です。日陰のない白い道を、疲れて歩いている時など、ふと思ひ出すのは、生々しいあの時のこと。呼んで家族人を尋ねて回った収容所や救護所や、わが子でさえ見わけがねるような痛ましい人々の群や、云ひようのない臭いなどです。[illegible]私は難い当時の広島を知る者で戦争への深い恐怖と嫌悪に、そっと肩をすくめずには居られないのです。

出つくすような生々しい[illegible]記憶は急速に薄れ（失せて）つつあるようですが、戦争への恐怖を知るものは過去の日本人のように簡単に戦争へかり立てられません。平和を叫びつつ（どうの）つまらん口実に負けてくる平和への願ひといふもの、[illegible]はやはり体験する戦争への恐怖や嫌悪の情から打ち出されてくるものです。それは高い教養や人間愛ちがうもっと深い精神が結びついて強い実践力を生んでくるものだと思われますが、そのためにもあの日の記憶などは各人の心の底に大切に保存され又、都市としても[illegible]一つの記念碑は残されていくのではありますまいか。

ところでその記念日を迎えようとする広島の街もどうで[illegible]せうか、「裸の町広島」と新聞の見出しがついているように、真赤な水着姿、映画の長い広告が塀から、裏の昼暗い裸の女が電車の横腹にまでとびまわってくるせ御中を走りまわる。明け方通りを占領して客を呼んでいるのは当今流行の性病青少年を求める悪習に染まっていくもの。思はず眼をそむけた愛想の

御大切にされ、これは何といっても若者のエネルギーといふべき現れと思ふべきとかぞへあるのは、エログロを越えて思はず嘆きが（さすがには居られません）

それに加えて、ここ一ヶ月位前からの新聞をみれば、少なからぬ党が今らぬようなことを連日、競争で書きたて、政府は政府で、ある党が暴力革命をもくろんでいるなどと、むしろ好んで社会不安を助長するような口ぶりです。

終戦、正体の知れぬものを繰返してのデマ宣伝と、それによる民心の恐怖と社会不安とはどのような立場にあって計画され、どのような時期にねつ造、流布されるかは、戦争をもたらした過去のファシズム政治に対する常識的な考察によっても私達はよく知っていますし、犠牲者たる勝利の[illegible]を叫びながら息をひきとった[illegible]によっても涙と共に思い返されるのです。

又、問題の多かるべき広島平和記念都市建設法案は、広く市民の賛同を得て実施の運びになったのですが、あの騒々しい宣伝運動に、市が百円かけたときいたり、投票が済んだとたんに、お座なりに名前をつらねた「平和都市建設株式会社」なるものの、大きな創立広告が、どうぞよろしく、と新聞に揭げられたりするのをみては、善良な市民なるもの、一寸眩んでしまいたくなるような気をするのもむりもない事でありませう。

暗い陰の下で、砕かれた瓦礫の堆積と、永遠に帰らぬ幾千の骨をうずめて再建を誓え、小さきながらの地に、文化と平和を叫びながら再びとり戻しつつある学都が、このような様相を呈しているのは一体どうした事でせうか？

去る年、かうした状況のうちに四回目の八月六日は迎えましたが、市役所の前に新しく設けられた「平和協会事務所」では日本の内外からテンテコ舞をして平和祭のプランが盛り沢山に発表されました。今年も、多くの外人も集って華々しく当日の式典は展開されることでせう。一昨年あたりから此の日のお祭り行事が一般から批判され、慰霊の念満ちてたえられないとして、市主催の行事は一応は静かな形態に定まったようであるが、しかし、協賛団体の行事は相変らず賑やかに繰りひろげられるらしく、私どもも市民の一人として心から参列し、有意義な一日を持ちたいと思っていますし、当事者の方々の[illegible]するわけですが。今度の「第四回平和祭行事一覧表」を見て心から痛感しますことは

平和に対する甚だ好ましからぬ要素から展開される日常様々な運動が集約されて結集を形成する基本ものとしての一平和祭、というつかみ方がまだしも不足しているのではあるまいか、ということです。

「平和を守る運動は我々の日常生活のすべての面から戦争を誘発するあらゆる要素を打ちくだいてゆくことが必要だ」という一般の声はようやく大きくなりつつあるようです。